

[様式2 (汚染水処理対策委員会に報告し、一般公開となるものです)]

提案書	
技術分野	①
提案件名	汚染水貯蔵タンクの(雨水)膜材防護カバー
提案者	太陽工業株式会社
<p>1. 技術等の概要(特徴、仕様、性能、保有者など)</p> <p>汚染水貯蔵タンクに膜構造のカバーをする技術。 この技術により、雨水との混在を防止し汚染水の漏水探知を確実に行う。 また、海岸線に近接している場所での汚染水貯蔵タンクを、塩害などでの早期老朽化を防ぐことを目的とする。</p> <p><input type="checkbox"/>仕様概要 膜材：ガラス繊維に塩化ビニールのコーティングを施した膜材(不燃材)</p> <p><input type="checkbox"/>A案 タンクを1基毎に独立した膜材カバーを被せる。カバーは組立可能なエリアで組み立てを行い組立てたものを所定のタンクにクレーンで被せる手法をとることができる。この手法により安全性の向上、作業効率の向上、作業員の放射線被ばくの低減を行う。カバー間には谷樋を設け谷樋に膜材を定着することにより、タンク基礎への雨水の進水を防ぐ。</p> <p><input type="checkbox"/>B案 タンクをエリアで膜材の棟屋を設置する。棟屋はタンクと接することがいため、タンクへの荷重負担もない。棟屋はタンクのエリア外で組立を行い、スライドさせ送り出すことによりタンク近接での作業を最小限にすることができる。この手法により安全性の向上、作業効率の向上、作業員の放射線被ばくの低減を行う。</p>	
<p>2. 備考(以下の点など、可能な範囲で御記入いただけますようお願いいたします)</p> <ul style="list-style-type: none"> 開発・実用化の状況(国内外の現場や他産業での実績例、実用化見込み時期を含む) A案、B案ともに既存技術で対応可能と考えます。但し、作業エリアでの使用クレーンの制約などで対応が難しいエリアがある可能性がある。 開発・実用化に向けた課題・留意点 設置位置周辺環境(障害物)、施工重機の調達、A案の場合の既存タンクの耐荷性、安全管理(線量管理含む)等の課題 その他(特許等を保有している場合の参照情報等) 補足資料NO.1はA・B案のスケッチ、NO.2はA案図面、NO.3はB案図面、NO.4はA案施工ステップ、NO.5はB案施工ステップを示す 	

(備考) 技術提案募集の内容 (6分野)

- ① 汚染水貯蔵 (タンク等)
- ② 汚染水処理 (トリチウム処理等)
- ③ 港湾内の海水の浄化 (海水中の放射性物質の除去等)
- ④ 建屋内の汚染水管理 (建屋内止水、地盤改良等)
- ⑤ 地下水流入抑制の敷地管理 (遮水壁、フェーシング等)
- ⑥ 地下水等の挙動把握 (地下水に係るデータ収集の手法、水質の分析技術等)